

迦葉山三世天山見亮大和尚開創 五百年の古寺 利根沼田横道三十三観音霊場 十八番札所

石尊山 観音寺

〒378-0074 群馬県沼田市下発知町332

T E L : 0 2 7 8 - 2 3 - 9 4 1 0

E-mail : info@kan-nonji.com

U R L : <http://www.kan-nonji.com>

— 第 27 号 —

2025年1月1日 発行

かん

Kannon-ji Temple



ごあいさつ

住職 いかるぎ こうけん
五十木 晃 健

観音寺の住職として十五年目、古稀を迎えた本年も皆様にご挨拶できますことの慶びを、身に染みて感じております。

令和六年の観音寺において大きな出来事は、六月に執り行つた「結制上堂」です。結制上堂とは曹洞宗における出世修行の儀式で、この儀式を経て私は和尚から大和尚へと位が変わりました。

この結制上堂を盛大に執り行うために、四十人もの和尚にご協力いただきました。四十人もの和尚が一同に集まるのは、観音寺の長い歴史の中でも、おそらくはじめての出来事です。そこで「庄巻の光景を、いつもお力添えとお世話になっている檀家さんに見てほしい」との想いから準備を進めまし

た。

当日は嬉しいことに、天候にも恵まれまた、平日にもかかわらず非常に多くの檀家さんにお集まりいただきました。無事に結制上堂を終えた後に、檀家さん方が「すごい！すごい！立派だった」と喜びを伝えてくださった姿は強く印象に残っています。

今回の結制上堂で、観音寺の住職として一つの集大成を迎えることができ、檀家の皆様とともに観音寺の歩みを祝えたことはひとえに檀家の皆様方のおかげと感謝しております。

もう一つの大きな出来事は、新しい庫裡(くり)が完成したことです。庫裡とは本来僧侶が居住する建物ですが、観音寺ではお参りくださる方々の休



憩室、アートや音楽などのイベントを開けるスペースとして開放するために、今回改築いたしました。

これまで観音寺ではたくさんのイベントを開催してきたものの、年齢を重ねることに体力の問題から、私自身が主催することは難しくなってきました。そのため、より若い世代がイベントスペースとして自由に利用できるように整備いたしました。有難いことに早速いくつかイベントに利用していただいています。

庫裡が完成したころから、子どもたちが集まる機会がふたたび増えてきました。コロナ禍で途絶えていた小学校の遠足や、中学生の社会学習、学習塾の合宿なども再開しています。くわえて、ピアノを寄付していただき、誰でも自由に弾ける「ストリートピアノ」として設置しました。そうしたご縁に恵まれたことで、境内に子どもたちの賑やかな声で溢れる時間が増えたことを喜ばしく思っています。



さらに、九月から三ヶ月間はサンドアート作家の綾砂さんが庫裡でサンドアート教室を開き、小学生十名ほどとその保護者が毎週通っていました。期間限定ではあったものの、発表会に向けて子どもはもちろん保護者の皆様も真剣にサンドアートに取り組む姿を見守れた日々は、私にとっても楽しいものでした。

こうして観音寺でイベントを開催してもらえるのは、ご厚意で庫裡を掃除をしてくださったり、本尊にお花を添えて

いただいたり手水舎を生花で彩ってくださる皆様のお力があつてこそです。日頃のお力添えに感謝するとともに、この庫裡が今後も次世代を育む場として賑わってくれることを願ってやみません。

引きつづき、檀家様や地域の皆様にお力添えいただきつつ、新たなご縁も大切にしながら、皆様が足を運ぶ際に「心がほっと落ち着くようなお寺づくり」を目指して精進してまいります。



感

謝

富澤美波

当日は、雲一つない蒼い空でした。私は恥ずかしながら法段の存在も知りませんでしたし、最初は「位が上がるめでたいこと」という印象でした。作法やマナーにも自信がありませんでした。参加者のなかに若者は私しかいなかった。式は本堂で行われ、周りには緊張感に包まれ、みんな真剣に聞いていました。そこには小さな小学生くらいのお坊さんもいて、時折場が和む場面もありました。何十人もの和尚さんの声が一斉に響き渡るときは迫力たるや、心臓に響いてくる感覚がして、私の細胞一つひとつに染み渡るような感覚がしていました。



れる人がいること、これは当たり前前のことではありません。明日が見えない、自分は何も取り柄がないと思ってしまうてもいいんです。感謝の気持ちと、いつも側にいてくれる存在を大切に思っている、必ず道は開けていきます。」と、和尚さんが私たちに送ってくださったお言葉が今でも心に響いています。そのとき、私がここに足を運ん

だ本当の意味が分かった気がしました。私は社会という世界に飛び込む一歩手前で、毎日周囲の声とこの先の不安に揉まれて生きています。どの道が合っているのか、自分はこのままでいいのかと目を逸らしたくなることばかりで、それでも時間は待つてくれず、地に足がつかないような毎日を過ごしていました。そんなときに、和尚さんのお言





葉を聞いて、『そういえば、周りの人たちに感謝の気持ちで伝えたのはいつだろう。』『家族みんなでご飯を食べたのはいつだろう。』と、周りが見えなくなっていることに気づきました。

全ての儀式が終わり、記念撮影をしている時もあたたかな日差しが降り注いでいました。まるでお天道様もおめでたと伝えてくれるようでした。一日を通して、普段では触れることができない沢山の

ことを学ぶことができた。生きていくうえで大切にしたいもの、それは「感謝の気持ち」であること。そして大切なものほど近くにあるということに気づくことができました。争いが絶えないこの世界で、一度立ち止まって考え、近くの大切な存在と、感謝の気持ちが一番大切であることを思い出せる人が増えていつて欲しい、そう思いました。

円鏡調印式

九十日間の結制(けっせい)修行があけることを「解制(かいせい)」と称します。

曹洞宗の結制修行は、僧侶が心身を清め、仏法を深く学ぶために非常に厳格な生活を送る期間です。その修行を無事に終えた証として、関係寺院が「円鏡(えんきょう)」という書類に印鑑を押し、正式に修行の達成を認めるのが「円鏡調印式」と呼ばれる儀式です。

また、「円鏡」という書類は、修行期間を終えた僧が心の鏡のように澄み渡り、仏法を学び修得した証とされ、まさに師や関係者からその成果を認められる意味を持ちます。印鑑を押す行為は、修行者の新たな一步を祝福する重要な象徴といえるでしょう。

この儀式は格式高く厳粛に行われ、仏法の教えに対する深い敬意が表されます。



境内草刈り

八月四日(日)、炎天下のなか、檀信徒の皆様と共に境内の草刈りを行いました。

暑いなか大変な作業にも関わらずスムーズに進み、最後まで取り組んでくださいましたことに深く感謝申し上げます。

境内は見違えるほどきれいになり、お盆を迎える準備が整いました。心より感謝いたします。



水芭蕉植えつけ

十一月九日(土)、檀信徒の皆様のご協力により、富澤次夫様ご提供の水芭蕉を、境内の沼地に植えつけ作業を行いました。この活動は、前回植えつけた水芭蕉が鹿の食害によって数が大幅に減少してしまったため、その補填と沼地の景観を美しく保つ目的で実施されました。皆様のおかげで、今回の植えつけは無事に終了することができました。



園児たちが来山

十一月六日(水)日、桐生市の幼稚園に通う元気いっぱい園児たちが、戸神山登山に來山しました。

季節的に暑さも和らぎ、登山には絶好の日和でした。小さな体でありながら、彼らのエネルギーは大人顔負けで、険しい山道をものともせず、一歩一歩確実に登っていく姿がとても印象的でした。

子供たちは全く疲れを見せることなく、むしろ笑顔を絶やさず楽しそうに登山を楽しんでいる様子がとても微笑ましかったです。



施食会を行いました

八月十六日(金)、観音寺本堂において「施食会」と「円鏡調印式」が執り行われました。

施食会は、先祖や故人を供養するとともに、檀信徒の皆様と仏縁を深める大切な機会として位置づけられています。

参加された檀信徒の皆様は、行事を通じて、日々の生活に感謝し、先人たちへの想いを新たにす貴重な時間となりました。

また、同日に行った「円鏡調印式」も滞りなく行いました。



※施食会(せじきえ)

仏教の世界には六道といわれる六つの世界があります。

この六道の一つである餓鬼道(がきどう)に堕ちて苦しんでいる無縁仏様を供養し、先祖代々の法要が施食会です。

戸神山登山

五月十七日(金)に地元池田小学校三・四年生の児童たちが戸神山登山のため来山してくださいました。

春の日差しの中で子供たちの笑い声が響きわたる毎年のこの光景はいつみても微笑ましいものです。

本堂では法話と、極楽と地獄のお話の体験としてお菓子を互いに与え合う体験をしました。

心水塾が来山

七月二十六日(金)・二十七日(土)前橋市の心水塾が来山しました。

まずは本堂を掃除することから始まり、坐禅や写経体験、般若心経読経など山寺の修行を体験していただきました。子供たちには初めての事ばかりです。

しかし、その山寺の体験の中から何かひとつ得るものがあれば住職として幸いです。



笑いの祭典

六月三十日(日)に笑いの祭典「みんなであう、笑いがうむ素敵なご縁と笑顔」と題してラフターヨガのイベントを開催いたしました。

当日はアクセサリーやハーブティのショップやアロマ体験などがならび、多くの人たちがあふれていました。

笑顔の集う観音寺にはぴったりのイベントでにこやかなひと時を過ごせました。



文字曼荼羅

九月十四日(土)～十六日(月)まで新しくなった庫裡にて「文字曼荼羅展」を開催いたしました。

美しい手書きの文字で構成された曼荼羅は見る人の心を魅了します。

イベントではクリスタルボール体験会やアンチエイジング整体など様々な催しが行われました。

新しくなった庫裡ではアーティストを開催でき、観音寺ではアーティストを応援しています。



サンドアート

アーティストを応援する観音寺は様々なジャンルのアーティストを開催しています。サンドアート教室では子供たちにその素晴らしさを体験してもらいました。

サンドアートは二度と同じ絵が描けないのが特徴で儼くも美しいその作品は人々の心に残ります。



新年度役員のご紹介

総代長 阿部 三郎様(下発知)

総代 木樽 保夫様(戸 神)

総代 松井 敦夫様(下発知)

総代 角田 二郎様(下発知)

世話人 林 達弥様(下発知)

茂木 洋子様(下発知)

金子 陽一様(戸 神)

吉澤 民枝様(戸 神)

会計 金子民之介様(戸 神)

書記 小菅 優喜様(下発知)

昨年まで世話人としてお世話になりました尾身広志様、宮下君子様大変ありがとうございました。

お世話になりました

本堂庫裡清掃 竹内 茂美様

庫裡解体 三ツ矢建設様

庫裡建築 田中工務店様

庫裡設計 前原建築事務所様

お借り致しました

道路拡張土地 阿部 直次様

案内板・のぼり旗設置場所

松井 順子様 松井 隆様

松井 和幸様 小林 康子様

沼北自動車様 関上 和寿様

松井 康治様 下発 知町

樹木葬用道路用地 松井 里美様

奉納御礼

手水舎・本堂を飾り付け

以前より鈴木杏奈様のご好意により、手水舎や本堂の飾り付けを行っていただいています。昨年の結制の際もテールブルの花の飾りつけなどもお世話になりました。お陰様で気持ちよく一年を過ごせました。心から感謝申し上げます。



ピアノ奉納

六月の中旬にピアノをご奉納くださいました。

庫裡が開いている時には誰でも自由に弾くことができます。(法要寺や庫裡内に来客中はご遠慮ください。)

演奏できる方が時たま弾いてくださいますが、ピアノの音色が庫裡の中に響くと、とても心が豊かになります。

音楽は良いものですね。ご奉納に感謝いたします。



中島裕明様より 壺と絵画が奉納

中島裕明様より壺と絵画を奉納していただきました。絵画の奉納の様子は上毛新聞にも掲載され、皆様に評判です。

絵画はザゼンソウを水彩画で描いたもので、禅宗である曹洞宗の寺院にはとても似合います。

また、壺は現在では収納してございますが、折を見て皆様に見られるようにしたいと思っています。

